外部公表用

デジタル技術に関する取り組み

（令和４年版）

株式会社マツダ

・はじめに

我が国は、人口減少および少子高齢化の局面に入り、慢性的な労働力不足に直面しており、デジタル技術の活用による、効率化の推進はもとより、ＡＩやロボット等の先進技術を駆使しつつ、デジタル技術の活用による様々なデータの取得･活用・連携により、これまでに培った強みを基点とした新たな製品やサービスを開発するなど、高付加価値な事業への転換が求められています。

本書類では、当社の効率化や高付加価値事業の創出のために当社が取り組む内容をまとめています。

１．　経営の方向性及びデジタル技術等の活用の方向性

①　デジタル技術が社会や自社の競争環境に及ぼす影響

・デジタル技術は、人口減少､少子高齢化といった我が国の大きな問題を解決するために活用すべきものです。

・デジタル技術は、社会や当社が継続して成長していくために不可欠なものです。

・当社では、デジタル技術を「顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立するもの」と捉えています。

②　経営ビジョンとビジネスモデル

・経営方針　「株式会社マツダは明るく風通しの良い会社風土を創りダクトおよび精密板金というニッチな分野において誠実そして大胆に業務に取り組み着実に利益を創造するオンリー企業を目指す」

・デジタル技術に関する取り組み

– デジタル技術の活用により、強みである「薄板板金・超微細溶接」「納期対応力」を強化し、我が国の技術の進歩に寄与していきます。

– デジタル技術の活用により、「業務の効率化」を図り、高いＱＣＤ（品質・コスト・納期）をお客様に提供してきます。

– デジタル技術の活用により､市場ニーズに応じた「新しい付加価値」を創出します。

２．　経営およびデジタル技術等の活用の具体的な方策（戦略）

①　経営ビジョンやビジネスモデルを実現するための戦略

・常に市場ニーズと技術の進歩に関する情報を取得していきます。

・デジタル化によって「新しい付加価値（製品・サービス）の創出」「効率化」を創出します。

・当社は、次のステップでデジタル化に取り組んでいきます.

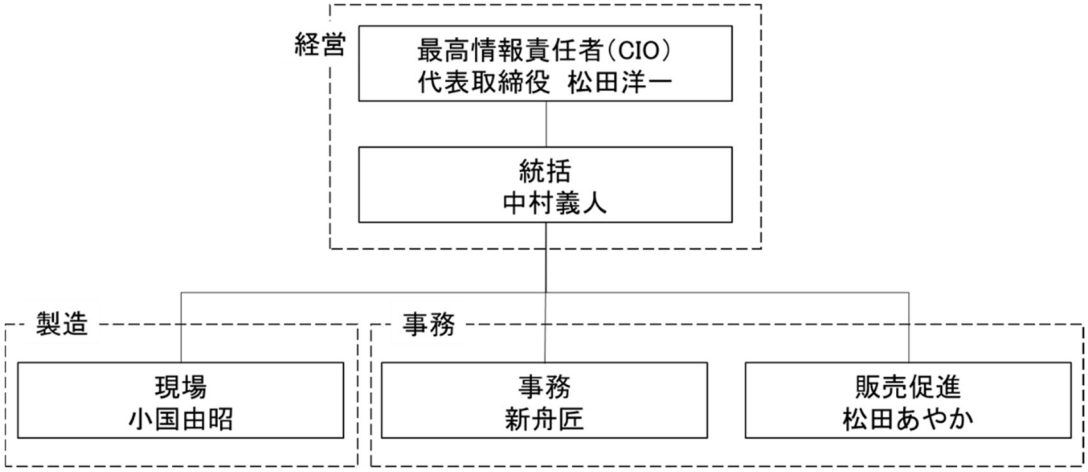
ステップ０	ステップ１	ステップ２	ステップ３
未実施	効率化		高負荷化価値創出
ー	各作業･工程の改善	業務プロセスの改善	経営変革
	自動化（部分最適）	自動化（全体最適）	新たな製品の開発
	機器の導入	システム構築	外部連携

② <情報セキュリティ５箇条>に取り組み、「SECURITY ACTION（一つ星）」を宣言します。

［1］　ＯＳやソフトウェアは常に最新の状態にしよう！
［2］　ウイルス対策ソフトを導入しよう！
［3］　パスワードを強化しよう！
［4］　共有設定を見直そう！
［5］　脅威や攻撃の手口を知ろう！

３．　戦略を効果的に進めるための体制

①　推進体制・組織



４．　「ＤＸ推進指標」における定量指標（人材）

①　ＤＸ人材（事業）の人数

・事業（事務）において、顧客や市場、業務内容に精通しつつ、データやデジタル技術を使って何ができるかを理解し、ＤＸの実行を担う人材の人数は、
令和４年５月現在：２人、３年後の目標：３人（事務１人増加）

②　人材（技術）の人数

・技術（製造）において、顧客や市場、業務内容に精通しつつ、データやデジタル技術を使って何ができるかを理解し、ＤＸの実行を担う人材の人数は、

令和４年５月現在：１人、３年後の目標：３人

③　**外部研修や講師を活用しＤＸ人材を増やしていきます。**

５．　関連用語

用語	説明
ＤＸ	・「Digital Transformation（デジタルによる変容）」 ・データやデジタル技術を使って、顧客視点で新たな価値を創出していくこと
ＩＴ	・「Information Technology（情報技術）」 ・会社の様々な情報をデジタルデータとして効率的に管理する技術
ＩｏＴ	・「Internet of Things（もののインターネット）」の略 ・様々な「モノ」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組み
ＡＩ	・「artificial intelligence（人工知能）」 ・膨大なデータを使い、多様な価値を生み出すデジタルツール
ロボット	・「Robot（ロボット）」 ・人の代わりに何等かの作業を自律的に行う装置、もしくは機械のこと
ＲＰＡ	・「Robotic Process Automation（仮想知的労働者）」 ・PC 上で行う業務をソフトウェアロボットで自動化すること

以上